

超初期胎児精密ドック

妊娠初期に、超音波検査を通じて赤ちゃんを診ることで、血液や遺伝子検査ではわからない多くの情報が得られます。

胎児の先天的な形態異常などを確認する検査を「精密超音波検査」といいます。NIPTなどの染色体検査でわかる胎児異常はわずかに20%弱であるため、妊娠初期の「胎児超音波精密検査」は最近注目を集めている検査です。

「精密超音波検査」はチェック項目が多く、細かな部分まで確認する必要があるため、高度な超音波検査技術と十分な検査時間が必要です。当院では、超音波専門医/技師が実施いたします。



GE Voluson
Expert 22



● 分かること

頭蓋骨や大脳の形成状態、目の数や大きさ、口蓋裂の有無、鼻骨の有無、首の後ろの浮腫や腫瘍の有無、脊椎の形状、心臓の位置、大きさ、4つの心室や弁の状態、その他各臓器の形状や異常の有無、胎盤の位置、胎盤血流の評価 など

● 検査できる週数

妊娠12週～13週6日を推奨します

● 実施日

第1・3・5土曜日 及び 第4・第5火曜日

● 料金 1回 15,000円

● 超初期胎児精密ドック+NIPT → 130,000円

NIPTは妊婦の血液中を流れている赤ちゃんの胎盤を由来とするDNAを調べることで、赤ちゃんの染色体異常リスクが高いかどうかを評価する検査です。

● 超初期胎児精密ドック+コンバインド検査 → 50,000円

最初の出生前診断として、NIPTでは評価ができない解剖学的な変化を検出できる可能性がある検査です。